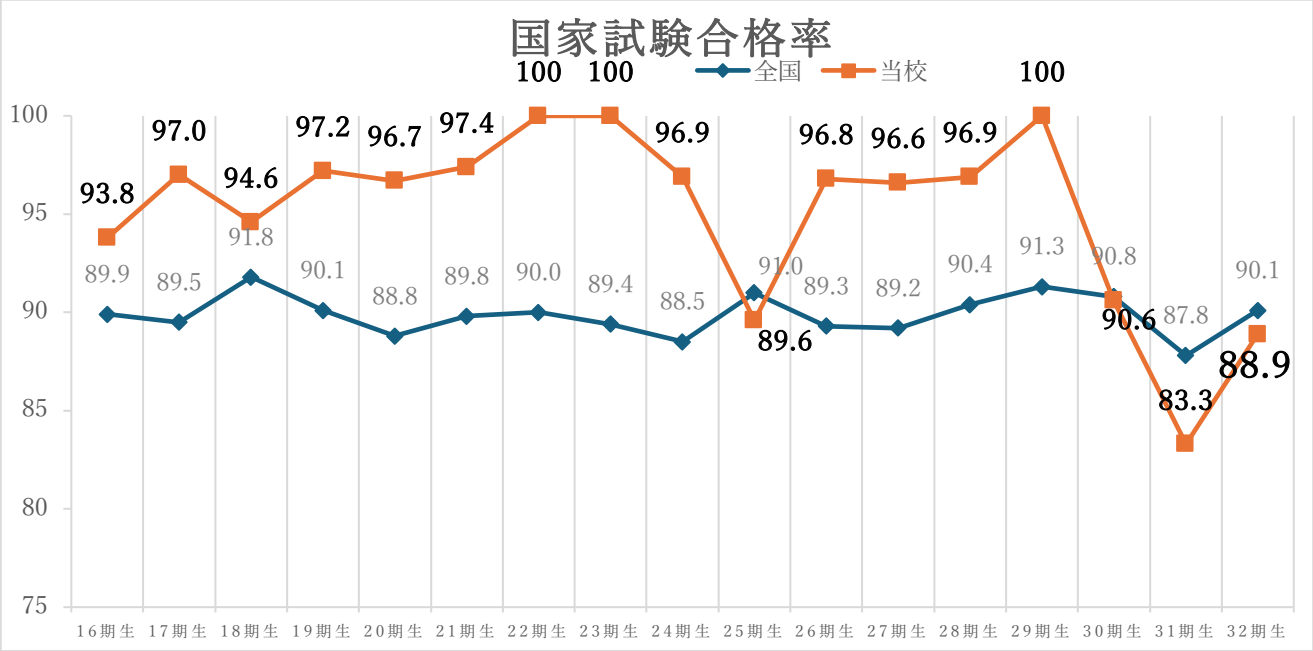

【32 期生国家試験の結果から】

Ⅰ．第 114 回看護師国家試験について

1．合格基準

必修問題及び一般問題を 1 問 1 点、状況設定問題を 1 問 2 点とし、次の①②すべてを満たしたもの

①必修問題　40 点以上

②一般・状況設定問題　148 点以上/250 点

なお、第 114 回国家試験では採点から除外された問題は無かった。一般/状況設定問題のボーダーラインは、過去 10 年で 2 番目に低い結果であった。

2．必修問題について

過去に出題された問題(プール問題)からの出題が多かった。プール問題対策が重要となるが、問題の内容については、解剖・病態生理の深い知識を問うものが増えてきており、過去問を解くだけでなく、派生学習をしていないと解けない問題が標準的となってきている。

3．一般/状況設定問題について

ボーダーラインが低いにもかかわらず、合格率が 90%に達していることから、全国平均の得点が低かったと考えられ、国家試験問題は昨年に引き続き難化傾向がみられる。科目別正答率では、解剖生理と病態生理の正答率が他の科目に比べ著しく低かった。

4．出題傾向について

直近の国試 5 回と比較すると、5 肢択 1・択 2 問題や組み合わせ問題の減少が見られた。また、114 回では解答に迷う問題や採点から除外されるような不適切問題はなかった。受験生が混乱するような出題の仕方を避ける傾向が伺える。また、状況設定問題では、近年の傾向として文章が長文化してきており、114 回では前年と比較すると 3000 文字ほど文字数が増加している。文章読解能力の低さは近年の学生に多くみられており、用語の定義の明確化や読解力対策も必要だと考える。

Ⅱ．当校における結果と今後の課題

1．32 期生の看護師国家試験の結果

必修問題の全国平均点は 46 点/50 点、当校の平均点 45 点/50 点といずれも高かった。32 期生は 36 名中 32 名が合格した。不合格者 4 名のうち、必修問題が 40 点に至らなかった者は 1 名であった。

一般・状況設定問題の全国平均は 180 点/250 点、当校の平均は 173 点/250 点となり、全国平均に比べ 7 点ほど低い結果であった。当校の受験生で不合格と

なった 4 名全員が、ボーダーラインに至らず不合格となっている。不合格者の得点は 130～140 点とボーダーラインより 10 点以上低い。

第 114 回看護師国家試験における当校の合格率は 88.9%で、前年 113 回の 83.3%より 5.6%上昇したが、全国合格率 90.1%には及ばなかった。

２．32 期生の国家試験対策支援の取り組み

今年度カスタマーサクセス(Web 学習サポート)を利用して国家試験対策支援を行った。10 分テスト(過去問題)実施後は、PICKUP 問題（間違えた問題）や「なぜ？どうして？」(詳細な解説) に取り組ませた。10 分テスト全 244 題に取り組んでいた学生は、その後の成績の上昇が大きかった。その一方で、不合格となった学生では、10 分テストの利用率が低く、振り返りなどの取り組みもできていない者が多かった。

不合格者はグループ学習の場面でも、知識が曖昧なままに説明するなど、有効的なアウトプット学習をできていなかった。試験が近づくにつれ、他者と比較し、焦りから個人学習を好む傾向がみられていた。知識の定着を促すグループ学習は有効であったと考えるが、その前に十分なインプットができていなければならず、学生の理解度を高めていくためにも、人体の形態機能や病理学などの基礎的な知識の強化を早期に集中して行っていく。基礎力の強化は低学年のうちから始めていくことが重要と捉え、3 学年全体に向けた国家試験対策を充実させていく。

Web 学習サポートは、通学時間などの隙間時間に効率的に学習することができ、また、繰り返し過去問題を解くのに利便性が高いコンテンツであった。しかし、従来通り紙媒体を活用した学生も多く、学年の約半数が問題集等を購入し学習していた。実際の試験も紙であり、紙の感覚になれる目的や、知識を定着させるためのアウトプット学習のためには、筆記することが重要と考える。デジタルネイティブ世代に合わせた学習スタイルを取り入れつつ、従来どおりの学習も活用し引き続き対応していく。